

破折ファイル除去についての考察 A consideration of removal of separated instrument

石川歯科医院
石川明寛
Ishikawa Dental Clinic
Akihiro Ishikawa



「緒言」

根管治療を行うと注意をしていますが、時として起こってしまうファイル破折。以前では全く見えなかったこの破折ファイルが、歯科用顕微鏡を使うことにより、かなり根尖にある場合でも見る事が可能となり、除去できる可能性が格段に高まった。確かに、破折ファイルを除去することだけが最善策とは限らない。外科的な方法などを考慮する必要もある。しかし、たとえ破折しても、ファイルを除去できる可能性があると思えることは、臨床家として大変心強いことである。破折ファイルの除去は、超音波チップにてファイル周囲を切削している最中に、振動にて除去されることも多い。しかし、湾曲した根管部で破折が生じていると、何らかの方法でファイルを牽引しないと除去できないことも多い。牽引にはマセランキットを小型改良したものや、ループテクニック、シアノアクリレートを用いた方法などがある。その中で今回は、超音波チップとノンベベル針に瞬間接着剤（シアノアクリレート）を応用して破折ファイルを除去した1例をビデオ供覧し、考慮した点などを紹介する。また、破折ファイル除去のその他の方法についても文献的考察を述べる。

「方法」

左側上顎第一大臼歯、遠心頬側根にKファイルの破折があり、これを超音波チップ（ST21、SCポイント4 オサダ）を用いてファイル周囲を慎重に切削した。ファイルがかなり動揺してきたところで、22Gのノンベベル針に瞬間接着剤を入れてファイルを接着させて除去した。ノンベベル針に瞬間接着剤を十分入れるため、ディスポのシリンジを用いて吸引して行った。また、ファイル除去後ニッケルチタンファイル（エンドウェーブ、モリタ）とデンタポート（モリタ）にて根管形成し根管充填を行った。

「結果と考察」

ファイルの周囲を超音波チップで除去することにより、ファイルがかなり動揺してきた時点で、1回目のノンベベル針と瞬間接着剤を用いての除去を試みたが、不成功に終わった。そこで、ファイルの先端部の切削が足りないことと、針の中に十分な接着剤が充填できていないことによる接着不良を改善することにした。再度顕微鏡下で慎重に切削し、2回目はディスポのシリンジにより瞬間接着剤を吸引し、ファイルと針との接着がより確実になり、除去に成功したものと考えられる。ファイルの牽引にはループテクニックなどが文献にて紹介されており、それぞれの方法に利点、欠点があり、ケースバイケースで取捨選択することが望ましい。破折ファ

イルの長さなども考慮に入れる必要はあるが、今回の方法も破折ファイル除去の効果的手段であると考える。